

# 付箋紙活用アプリを用いた協働学習の実践 —学習者のコミュニケーション・スキルに着目して—

錦戸 萌子 (10115080)

## 1. はじめに

近年のグローバル化の進展や技術革新に伴い、新しい時代に求められる資質・能力を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」が推進されている。また、主体的・対話的で深い学びを促す方略のひとつとして、協働学習が注目されている。「協働学習」の効果としては、学業成績及び学習意欲の向上、推論方略や批判的な推論能力の増加などが挙げられる。しかしながら、グループでの議論において、学力の高い子どもや影響力のある子どもの意見に集約されてしまうことも考え得る(北田 2015)。瀬戸崎ら(2019)は、教員志望の学生を対象にタブレット端末を用いたグループ活動を実践した。その結果、対人との関わりを得意としない学生らは、教師として協働学習を実践することに対して、肯定的な評価となった。したがって、タブレット端末のような ICT 機器を用いることで、協働学習に対する情意面を変容させることも考え得る。

そこで、本研究は付箋紙活用アプリによる意見の可視化・分類を通じた協働学習をデザインし、大学生を対象に実践した。さらに、コミュニケーション・スキルの観点から学習者の協働学習に対する情意面の評価を目的とした。

## 2. 方法

調査の対象は、大学生 41 名(有効回答: 37 名)であった。実践の様子を図 1 に示す。本実践では、ひとり 1 台のタブレット端末を学習者らに配布し、付箋紙活用アプリ(Post-it Plus/3M 製)を用いた協働学習の場面を設定した。事前に「コミュニケーション・スキル尺度 ENDCORES(藤本・大坊 2007)」を実施した。また、コミュニケーション・スキル尺度に含まれる、「自己主張」、「表現力」の 2 つの因子が、ともに平均値を下回る参加者を「表出系 下位群(10 名)」とし、それ以外の参加者を「表出系 上・中位群(27 名)」に分類した。さらに、授業後にアンケート調査を実施し、本実践におけるグループ活動に対する主観評価による回答を得た。また、「まったくそう思う」を 5 点、「そう思う」を 4 点、「どちらとも言えない」を 3 点、「そう思わない」を 2 点、「まったくそう思わない」を 1 点として  $t$  検定を行った。



図 1 本実践における協働学習の様子

## 3. 結果・考察

アンケート調査の結果、すべての質問項目において平均値 3.0 以上の回答が得られた。したがって、参加者らが経験してき

たこれまでのグループ活動と比べ、今回の協働学習がより効果的な活動であったことが示された。さらに、「表出系 上・中位群」と「表出系 下位群」における主観評価を比較した結果、「自分の意見を言えた」、「議論に参加できた」などの 10 項目において有意な差はなかった。したがって、コミュニケーション・スキルにおける、表出を苦手とする参加者らも、協働学習に対して「表出系 上・中位群」と同じ程度の満足感を得たことが示唆された。一方、「本日の活動は楽しかった」の回答の平均値に有意な差があった。また、「意見を論理立てて発言できた」、「自分の考えを整理できた」の回答の平均値に有意傾向があった。したがって、表出を苦手とする参加者に対して、興味を高める手立てや、自分の考えを整理し、論理立てて発言できるような支援も必要である。

自由記述によって得られた回答をカテゴリに分析した結果、「*沢山のアイデアを自分なりに整理できたのでグループに参加できた*」などの「アプリの有用性」に関する回答や、「*個人で扱うため、意見が言いにくい人でも意見を整理できたり見せられたりする*」などの「個人思考の充実」に関する回答が得られた。したがって、ひとり 1 台のタブレット端末を配布した学習環境や、付箋紙活用アプリを用いたことによる個人思考の充実が協働学習での議論の質の向上に影響を与え得る可能性が示された。

## 4. まとめ

本研究では、大学生 41 名を対象に付箋紙活用アプリを用いた協働学習を実践し、コミュニケーション・スキルの観点から学習者の協働学習に対する情意面の評価を行った。その結果、コミュニケーション・スキルにおける、表出を苦手とする参加者らも、協働学習に対して「表出系 上・中位群」と同じ程度の満足感を得ることが示唆された。また、学習者の個人思考を重視した協働学習がグループ活動での議論の活性化に影響を与え得ることが示された。

今後の課題は、付箋紙活用アプリを活用した協働学習が学習者の情意面に与えた要因について、詳細な分析をすることである。

## 5. 参考文献

瀬戸崎典夫, 中尾早紀, 藤井佑介(2019) タブレット端末を用いたグループ活動による教員養成課程学生の意識変容—個人特性を要因とした協働学習に対する意識について—長崎大学教育学部紀要(教育科学), 第 83 号, (印刷中)  
北田佳子(2015) なぜ、いま「協同的な学び」が必要とされているのか—「知識経済」の限界を乗り越える力を育むために—, 学校教育研究 30, 23-37

(指導教員 瀬戸崎 典夫: 初等教育講座)